

「六彩会」という組織をご存知だろうか。「六彩会」は、昭和36年に、小田原市を中心に、足柄下郡の箱根、湯河原、真鶴（現在は休止中）の一市三町の主婦たちで発足されたグループである。グループ名は、人間の食生活に必要な不可欠な*1「六つの基礎食品」に由来する。

バランスのとれた食生活をめざしながら、アジ、イワシ、サバなど地場産の大衆魚を利用した食文化の伝承や普及を目的とした料理講習会を中心に活動している。

「六彩会」の原点は、発足からさらにさかのぼる。当時は終戦間もない頃で、まだ物資も乏しかった。そこで、神奈川県小田原保健所が中心となり「もっとバランスのとれた食事を」と、地域の食生活改善を目指して指導者を養成するために、婦人会など地域の婦人団体に受講を呼びかけ「食生活改善指導者講習会」を開催した。この講習会のシリーズで教わったものはすぐに家庭で役立つもので、それだけに教わる方も熱が入った。この講習会が終了した後、

*1 六つの基礎食品 = (魚・肉・卵・大豆の「1類」、牛乳・乳製品・骨ごと食べられる魚・海藻の「2類」、緑黄色野菜の「3類」、その他の野菜、果物の「4類」、米・パン・麺・芋の「5類」、油脂・種実の「6類」。)

六彩会が、

目指したものの。



『戦後10年、昭和30年代の初めの頃は、食事内容は変化しているものの、食べられれば良いという時代でした。その様な時に、栗原小田原保健所長が「主婦に栄養の知識を持ってもらい、《まず、家族の健康を》』と、

全国に先駆けて講習を行いました。

その受講生が、もっともっと、勉強したいと「会」を作りました。』

(食生活改善推進団体 六彩会 50周年記念誌より)

魚國さんから、読者プレゼントあり。
詳しくは、巻末のプレゼントコーナーをご覧ください。



卒業生から「もっと勉強を続けたい」という声上がり、昭和36年に同講習会のOB有志17人で、食生活の改善を目的とした組織をつくりスタートした。それが、「六彩会」のはじまりなのだ。当時は、まだ女性たちが外に出て勉強するということが、非常に珍しい時代であった。会員たちは自分が教わった料理を、今度は「指導者」となってそれぞれの地域にもどり町内や近所の主婦に教える。

これはまさに、自治会を基本とした地域コミュニティがあるからこそだ。地域を「人」単位でつなぐネットワークをもつ地域コミュニティというのは、こうした社会問題に取り組む時にこそ、その迅速かつ、一軒一軒までいきわたる細かい伝達系統が威力を発揮する。

そして、時は現代。発足から55年経った今も六彩会の活動は続いている。それどころか、世界的に食生活と健康の関係に関心が高まるなか、当時から「減塩」を推奨するなど、時代に先がけていたその活動の意義はさらに高まっているといえる。

「六彩会」の風景

